

2008 利尻山のトイレ対策について

住 吉 直 人 (利尻富士町産業建設課)

1. 利尻山の登山者数

ア 年間登山者数

平成 15 年より赤外線による入山カウンターを 6～10 月まで設置し、その他の月は登山計画書により年間の登山者数を把握した。

利尻島の年間観光客数約 20 万人のうちの約 5% が登山客であり、そのうち鴛泊コースが約 91% を占めている。



入山カウンター

(単位：人)

年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年
カウンター(6～10 月)	12,936	10,971	9,488	9,534	9,671	9,933
登山計画書 (1～5 月、11～12 月)	305	300	257	88	94	112
登山者数	13,241	11,271	9,745	9,622	9,765	10,045
うち鴛泊コース	10,386	9,955	8,675	8,781	8,914	9,123
うち沓形コース	2,855	1,316	1,070	841	851	922

イ 月別登山者数 (平成 20 年)

最も多く登山している月は 7 月 (1 日平均約 122 人) であり、年間の登山者数の約 38% を占めている。

(単位：人)

年	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
登山者数 (カウンター)	2,896	3,778	2,176	1,025	58
うち鴛泊コース	2,712	3,514	1,877	889	35
うち沓形コース	184	264	299	136	23

2. 携帯トイレの販売数

携帯トイレの販売価格は税込み 400 円（携帯トイレ 1 個、使用済携帯トイレケース 1 ケース）で、島内各宿泊施設、商店、コンビニエンスストア、観光案内所、キャンプ場で販売した。

また、山のトイレマナー袋（柵ムッシュより無償提供）を販売時に配布し、ゴミの回収についても協力を呼びかけている。

【販売箇所別販売数】（単位：個）

名称	販売数
宿泊施設	4,748
商店、コンビニ	20
観光案内所	115
キャンプ場	396
計	5,279

3. 携帯トイレの利用状況

使用済携帯トイレの回収率は以下、表のとおりですが、平成 20 年については 67.1%と大きく上昇した。

理由としては、一昨年「利尻ルール」を作成し、インターネットや島内の掲示板や、旅行業ツアー登山協議会、アウトドア協会や山岳ガイドへ周知徹底を図ったことと、トイレブースの更新により、登山者が快適かつ安全に携帯トイレを使用した結果、回収数の増加及び回収率の増加につながったと考えております。

このようなことから、今後も登山者一人一人へ周知徹底を図ることはもちろんのこと、「利尻山は携帯トイレの山」をスローガンに、普及啓発に努めます。



使用済携帯トイレ回収ボックス

(単位：個)

年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	
携帯トイレ配布数 (H18～販売数)	9,517	9,210	4,946	5,644	5,279	
回収数	2,545	2,429	2,396	2,164	3,541	
	うち鴛泊コース	2,424	2,376	2,366	2,118	3,490
	うち沓形コース	121	53	30	46	51
回収率	26.7%	26.4%	48.4%	38.3%	67.1%	

利尻ルールとは！

- 携帯トイレを使う
- ストックキャップをつける
- 植物の上に座らない、踏み込まない

4. 携帯トイレブースの設置状況および経費

ア、設置状況

携帯トイレブースは平成13年に鴛泊コース8合目、沓形コース6合目の避難小屋に設置したのが始まりで、平成14年に一体型樹脂製ブース3基と、平成15年に組立式樹脂製ブース3基設置したが、雪の影響で屋根がつぶれたり、老朽化によりドアの破損が著しいことから、平成19年に環境省の直轄事業により、耐久性の低かったFRP製トイレブースから、完成度の高い木造小屋式トイレブースへと更新されました。



携帯トイレブース（避難小屋 テント製）



携帯トイレブース（9合目 一体型）



携帯トイレブース（避難小屋 組立式）



携帯トイレブース（6合目 木造小屋式）



イ、設置経費

平成13年	テント式ブース	1基	3万円×2基	6万円
平成14年	一体型FRP製ブース	1基	25万円×3基	75万円
	運搬経費（ヘリコプター）			24万円
平成15年	組立式FRP製ブース	1基	25万円×3基	75万円
平成19年	木造小屋式ブース	5基設置	設計	130万円
			工事費	1,344万円
			(1基当たり)	295万円

5. 携帯トイレ募金（林野庁環境整備推進協力金）

携帯トイレ募金については、平成16年から実施し、携帯トイレ配布数から見た一人当たりの募金額は平成16年で12.2円、平成17年で8.4円であった。

平成18年からは携帯トイレを有料化したこともあり、利尻山環境整備募金と名称を変え、登山道、避難小屋、携帯トイレブースの清掃活動費として協力を呼びかけている。



募金箱（登山道入口）

(単位：円)

年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
募金額（5～10月）	116,074	77,688	17,195	18,626	23,032

6. 利尻山登山道等維持管理連絡協議会

利尻町、利尻富士町ほか関係12団体によって構成されている利尻山登山道等維持管理連絡協議会では、今後の利尻山の維持管理のあり方について積極的に話し合っておりますが、平成18年より環境省のグリーンワーカー事業を受託し、登山道の維持補修に努めております。平成19年より小型フトン籠及び、土のうによる維持補修を行っておりますが、平成20年についても引き続きフトン籠設置による足場の確保や、土のうによる土留を行ったほか、裸地化の著しい場所へ、緑化マットによる法面保護を行い登山道の侵食を防いでいる。





進入禁止ロープ付け替え作業



緑化マットによる法面保護

また、平成 19 年に更新された携帯トイレブースの維持管理を行うとともに、登山道の補助ロープや進入禁止ロープの付け替え、オーバーユースと考えられている登山客の分散を図るための旧登山道のササ刈り作業、定期的な登山道の監視活動を行っている。

また、一昨年より作成した「利尻ルール」の普及啓発を関係団体と連携を取りながら、一丸となって取り組んでいく予定である。